

「風間浦鮫鯨」の名 全国に

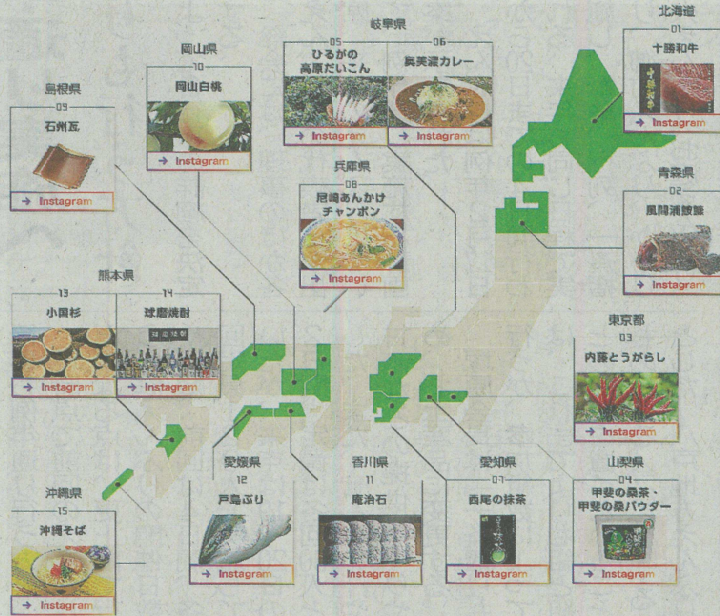
青公大生・村団体 商品開発、動画作成へ

ブランド総選挙でPR

風間浦村の「風間浦鮫鯨」が、特許庁など主催の「全国地域ブランド総選挙」に参加する。青森公立大学経営経済学部地域みらい学科の学生7人と地元団体が、村風間浦鮫鯨ブランド戦略会議がチームを組んで魅力をPRし、学生の視線を取り入れた商品開発にも挑戦する。

(鳥谷部知子)

特許庁の担当者によると「全国総選挙」の開催は今回が初めて。全国15チームが「全国総選挙」の開催は今回 エントリーしており、12月



「総選挙」にエントリーした全国15チーム自慢の産品(全国地域ブランド総選挙ホームページより)

の地区代表決定戦を経て9チームに絞られる予定。東北地方からのエントリーは「チーム風間浦鮫鯨」のみ。学生がPR用の取材活動に熱意を持っていることから東北代表として9チームに残る可能性が高いという。学生は30日から風間浦村を訪れ、村民ら取材する。アンコウの認知度やイメージに関するアンケートも行う予定。その後、12月の地区代表決定戦に向けてビジネスプランやPR動画を作成する。

北海道、岡山白桃、沖縄そばなど有名どころも参加するが、審査員6人は会員制交流サイト(SNS)での発信、作成動画、プレゼンテーション資料の内容を総合的に評価して順位を決める。

地域みらい学科2年の中村実菜さん(20)は「風間浦鮫鯨は見た目がちょっと怖いけれど、鍋、刺し身、ともあえにして食べられていて、地域に根付いていることが分かった。アンコウのことを調べるうちに魅力を再確認した」と話す。事務局を務める村産業建設課の大野祐太郎主任は「まだアンコウ漁が解禁されておらず、定期的に不利な状況だが、商品開発やPRのアイデアは村外の学生ならではの良い視点もある。全面的にバックアップしていく」と意気込みを語った。

全国地域ブランド総選挙 地域団体商標制度の普及と活用促進を目的に、特許庁などが開催する事業。各地の学生が地域団体商標権者などを取材し、産品の魅力を写真共有アプリ「インスタグラム」で発信するほか、新商品や新ビジネスのアイデア、PR方法などを競う。決勝戦は来年2月にオンラインで開催予定。